**論文執筆要項**

|  |  |
| --- | --- |
| 1. | 原稿は、論文例のテンプレートを用いてMicrosoft Wordで作成し、A4版、２段組で24字×44行で**20枚以内**とし、文と、図表、写真を適切な位置に貼り込んで、PDF形式に変換して提出する。Texで作成した場合も、上記と同様の体裁として、PDF形式に変換して提出する。 |
| 　 |  |
| 2. | 原稿は次の要素から構成される： |
| 　 |

|  |  |
| --- | --- |
| 2.1　１ページ目： | (1)標題、(2)標題の英訳、(3)著者名、(4)著者名ローマ字、(5)所属機関名、(6)所属機関名の英訳、(7)論文種別を明記する。 |
| 2.2　２ページ目： | (1)標題、(2)和文要約（約４００字）、(3)英文要約（約１５０語）、(4)キーワード（５～６語）を日英両語で入れる。 |
| 2.3　以降： | (1)本文、(2)謝辞(必要に応じ)、(3)注(必要に応じ)、(3)参考文献の順に書くこと。 |

 |
|  |  |
| 3. | 記述の原則は当用漢字、現代かなづかいとする。数字は算用数字を使用する。 |
| 　 |  |
| 4. | 本文において章・節等の記号をつける場合には、章にあたるものは"1."、"2."、．．．のようにし、第1章、第1節にあたるものは"1.1"のようにする。 |
| 　 | 　 |
| 5. | 本文中における外国人名等の固有名詞は、原綴りあるいは英語綴りを原則とする。 |
| 　 | 　 |
| 6. | 図や表は本文の適切な位置に貼りこむ。また図１、表5のように一連番号を付するとともに、必ず題を付ける。なお、付ける位置は図の場合は下に、表の場合上にする。 |
| 　 | 　 |
| 7. | 注は出来るだけ少なくする。必要な場合、論文等の最後、参考文献の前に一括して入れ、本文中の該当箇所の右肩に１）、２）のように示す。 |
| 　 | 　 |
| 8. | 文章中の数式における文字はすべてイタリック(斜体)で印刷される（ただし、sin、logなどの関数記号は直立体）。また一つ、二つ、などの数字は原則として漢数字を使う。 |
| 　 | 　 |
| 9. | 数式には一連番号を付する。 |
| 　 | 　 |
| 10. | 謝辞が必要な場合は本文の最後，注の前に置く。 |
| 　 | 　 |
| 11. | 参考文献は、欧文・和文のものを一緒に、著作者の姓のアルファベット順によって並べる。同一著者の同年公刊の文献には、a, b, c, … をつけて区別する。参考文献の欧文書式の詳細はPublication Manual of the American Psychological Association (fifth edition, 2001)のスタイルに従うものとする。参考文献の和文書式の記述形式は、雑誌の場合、著者、発表年、標題、雑誌名、巻数、論文所在ページの順とし、単行本の場合、著者、発行年、書名、発行所の順とする。 |
| 　 | 　 |
| 12. | 参考文献の本文中での引用について，初出は全員の名前，その後，4人以上の場合は「．．．ほか」（和文）あるいは"．．．et al."（欧文）をつける。例として次のようにする： |
| 　 |

|  |  |
| --- | --- |
| （例） | Cronbach(1951) は　．．．.Lord and Novick(1968) によると　．．．(APA基準では文中'＆'でなくつ'and')池田(1992)　は　．．．山田太郎・高橋花子・佐藤一郎・鈴木かおり（2003）は．．．（初出）　山田ほか（2003）は．．．（2回目以降）　．．．　といっている　(Cronbach，1951)。．．．　といっている　(Lord　＆　Novick, 1968)。．．．　といっている　(池田, １992)。  |

 |
| 　 | 　 |
| 13. | 原稿は、この「論文執筆要項」に従って執筆し、日本テスト学会編集出版委員会に送付する。編集出版委員会のアドレスは学会のホームページに掲載される。 |
|  |  |
| 14. | 投稿する際、執筆筆頭者は、「投稿チェックリスト」を使用して、投稿形式等を確認し、確認結果を提出すること。 |

（2013年9月27日現在）